

楽しく美しい まちづくり通信…④6

古来から伝わる占い

似鳥八幡冬の祭

司宮崎一三(一三)で冬の例大祭が行われます。

この例大祭で、古くから伝わる二つの占い事が行われます。

その一つは、「おこもり」と言われ、米飯でつくっておいた

五穀盛り(米、麦、豆、粟、きびの五穀を意味する米飯を二十

疋ほどの高さに盛り上げて五本つくる)により、そのはぜ具

合(凍り具合)で五穀の作柄を占います。「形良く正しく並ん

で凍結した年は豊作、倒れたり崩れたりした年は凶作」と宮崎

さんがいます。また、天保の大凶作の年は、おこもりにハエ

がついたと伝えられています。寒さも一段と厳しくなる夜七

時ごろ、境内では権現舞が奉納されます。それが終わると、も

う一つの占いが身を清めた若者達によって行われます。宮司宅

に集合した裸参りの若者達は、おはらいを受けて御神酒をいた

だき、井戸に行き桶に水を汲み水ごりをとりまします。左肩、右肩、

左肩と三回かぶり、水をよく拭きとって、頭に白鉢巻きをして、

禪の上にしめ縄を締め、口には三角に折った口紙をくわえ、右

手には「へいそく」を持ち、左手には御さい銭を持ち、参道の

石段を登って行きます。正面の本堂に参拝した後、境内にある

十四カ所のお堂を一つ一つ巡り参拝します。

参拝が終わり、法螺貝の音が山々に鳴り響くと、いよいよ大

祭のクライマックス「サイトギ」を迎えます。この神事が行われ

ているのは、県内でもここだけという、珍しい行事です。

境内のほぼ中央部に、生木を井桁に組んで三層ほどに積み上

げて法螺貝の合図で笹の葉を持



火の粉が舞う緊張のとき

って火を放ち、火が燃え盛るようになると裸参りをした剛力達が木の棒でこれを揺すります。この時舞い上がった火の粉の流れる方向で、この年の農作物の作柄を占うのです。

宮司の宮崎さんの目が火の粉を追います。「火の粉が石段の方向へ流れると北風で豊作。神社の方向へ流れると南風で凶作。この日吹く風は、六月土用に吹く風とちょうど逆になると言われているんです。この時期の天候は、その年の農作物の作柄に大きく左右するということでしょう」と話してくれました。

宮崎さんは、風、火の粉の流れを「分析」してその年の作柄を占い、その結果を報告します。「報告のとき、いつも緊張します。今年の冬は雪も少なく、暖かい・・・」と少し気掛かりな様子でした。

25日(火) 1歳6カ月児健康診査(市保健センター)

こよみ



2月11日～3月10日

★2月★

11日(火) 建国記念日

12日(水) 3歳児健康診査(市保健センター)

13日(木) 母親学級(市保健センター)

14日(金) 障害者補装具巡回相談(ワークインにのへ)

15日(土)

16日(日) 第14回二戸市郷土芸能祭(市民文化会館)

17日(月)

18日(火) 10カ月児健康診査(市保健センター) 市民生活相談(市役所市民相談室)、

雨水

19日(水)

20日(木) 2歳児歯科検診(市保健センター)

21日(金)

22日(土) 第23回市民かるた大会(市民文化会館)

23日(日) 根森えんぶり祭り(根森地区)

24日(月)

25日(火) 1歳6カ月児健康診査(市保健センター)

25日(火) 1歳6カ月児健康診査(市保健センター)



似鳥八幡神社宮司
宮崎一三さん(61歳)
(似鳥字沢)